

(様式1)

# 茨城県英語教育改善プラン

実施内容

1. 英語教育の状況を踏まえた目標 <目標設定・管理（中・高等学校）2018～2022>

茨城県では、小学校外国語教育の早期化・教科化にいち早く取り組むため、2018 年度から3年間、小学校英語教育支援事業を実施した。この事業において、県内の小学校から実践マネジメント校（30 校）とサポート校（103 校）を指定し、県指導主事による訪問指導を通して、教科化に向けた指導方法の研究や、学区内中学校教員の小学校授業参観及び小学校教員との協議、域内の中・高の英語教育推進リーダーによる小学校への校内研修支援を進めた。

また 2019 年度から全小学校で英語の教科化を先行実施するとともに、小中学校教員を対象に、指導力向上、授業改善に向けた悉皆研修を行ってきた。

中・高等学校においては、生徒の発信力を向上させるために、4 技能統合型の指導方法研修や、県教育研究会英語部会、市町村教育委員会と連携した各事業を通して、小学校から高校までの外国語科の円滑な指導の接続を図り、授業の中で4 技能が育成できる授業改善に向けた取組を進めている。

これらの取組をさらに推進するため、令和3年度茨城県学校教育指導方針において、以下のように指導の重点化を図る。

（小学校） 言語活動を通じた、互いの考えや気持ちなどを伝え合う力の育成

（中学校） 技能統合型の言語活動を通じた、発信力の育成

（小中共通） 小中連携（情報交換⇒交流⇒指導方法の連携）

（高等学校） 4 技能5 領域の総合的な育成と発信力の更なる育成

なお、「公立小学校、中学校および高等学校における英語教育実施状況調査」の結果を踏まえ、本県では、以下の目標設定と管理を行うこととする。

(1) 国が求める英語力（高3：CEFR A2 以上、中3：CEFR A1 以上）を有する生徒の割合

2019 年度は、高等学校では 44.6%（全国平均 43.6%）、中学校でも 48.3%（全国平均 44.0%）と全国平均と比べて高く、前年度を上回っている。

しかし、高等学校では県の目標値を 3.5 ポイント上回った一方で、中学校では目標値に達していないことから、中学校における4 技能の総合的な育成を進めるため、授業改善を推進していく。加えて、生徒の英語力向上に資する外部検定受検を一層奨励していくとともに、各自治体に対して受検料補助事業による支援を呼び掛けていく。

また、教員が生徒の英語力を客観的に把握するため、2019 年度から県が英検と連携して、年に1 回、英検 IBA の受験の機会を全中学校と希望する高校に提供している。

さらに、高等学校では、実践的な英語コミュニケーションの機会を充実させるために、外国語指導助手（ALT）を増員（2019：40 人→2020：53 人→2021：59 人）し、重点校には複数名の ALT を配置するなどして、生徒の英語力の向上を図っている。

【目標及び数値指標】

CEFR A2 以上相当の英語力をもつ生徒の割合（%）

年度		2018	2019	2020	2021	2022
高等学校	目標値	36.2	41.1	49.6	54.4	59.2
	実績	41.0	44.6	集計中		

CEFR A1 以上相当の英語力をもつ生徒の割合（%）

年度		2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	48.6	54.0	57.2	60.4	63.6
	実績	41.5	48.3	集計中		

**(2) 国が求める英語力 (CEFR B2 以上) を有する英語担当教員の割合**

高等学校においては割合が着実に上昇し、2019 年度には 77%となり、全国平均 (72.0%) を大きく上回ったが、中学校では 28.8%と全国平均 (38.1%) より、9.3 ポイント低く、依然として目標値と大きな隔りがある。

そのため県では 2019 年度から外部検定試験 (CEFR B2 以上) の受検料を合格者に半額補助するとともに、中学校の未取得教員に対しては、国のオンライン研修への積極的な参加を呼びかけたり、オンラインでの学習支援アプリを提供したりしている。

また、教員も生徒とともに学び続ける重要性を学校訪問や各種研修会 (県高等学校教育研究会英語部や県教育研究会英語教育研究部とも連携) で伝えることで、教員の意識の啓発を促し、国が求める英語力を有する教員の増加を目指していく。

さらに、高い英語力や専門性をいかした授業を行い、質の高い英語教育を充実するため、2020 年度から、教員採用に関して「特別選考試験」を実施し、ネイティブや英語力の高い日本人に特別免許状を付与して教員として採用している。これまでネイティブ等の教員を義務教育課では 10 名、高校教育課では 5 名採用した。

今後は、県内全域への配置を目指すとともに、研修講師等としての効果的な活用を図ることで、教員の英語指導力向上に向けた指導体制づくりを構築していく。

加えて、教員養成大学に対して、学生が大学在学中に CEFR B2 以上の英語力を取得するよう継続して働きかけていく。

**【目標及び数値指標】**

CEFR B2 取得率の割合 (%)

年度		2018	2019	2020	2021	2022
高等学校	目標値	62.0	73.2	75.0	75.0	75.0
	実績値	66.0	77.0			
中学校	目標値	55.0	57.0	60.0	60.0	60.0
	実績値	28.8	28.8			

**(3) 授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合**

中学校では、新学習指導要領で、英語を使って聞くこと・読むこと・話すこと・書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成することが示されていることから、重点項目として、「授業中、おおむね、または半分以上言語活動を行っている割合」が 2022 年度に 100%になることを目標として設定する。

目標達成のために、2020 年度から義務教育・高校教育課が連携して、「英語プレゼンテーションフォーラム」(課題解決的なテーマを基に生徒の意見や考えを英語で表現し、聞いた内容を生徒同士がやり取りすることを目的とした大会) の実施を計画した。(2020 年度はコロナ禍で中止)

なお、教員の英語使用状況については、2022 年度までに「発話を英語で行う割合」100%を目標として設定している。言語活動の割合が向上していくことで、教員の英語使用状況も上昇することを目指す。

**【目標及び数値指標】**

生徒の授業における言語活動時間の割合 (%)

年度		2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	90.0	95.0	100	100	100
	実績値	78.0	83.1			

**(4) 外国語指導助手 (ALT) を活用した時数の割合**

(前掲)

(様式 1)

高等学校では、実践的な英語コミュニケーションの機会を充実させるために、外国語指導助手 (ALT) を増員 (2019 : 40 人→2020 : 53 人→2021 : 59 人) し、重点校には複数名の ALT を配置するなどして、生徒の英語力の向上を図っている。

各校での活用にとどまらず、県の事業 (「高校生国連グローバルセミナー」「英語ディベート大会」等) においても、ALT をラーニングメンターやジャッジ等で活用することで、各校に対して ALT の多様な活用方法を周知している。

さらに、高校教育課内に、ALT 相談員に加えて、2021 年度からは国際交流員 (CIR) を配置し、CIR が中心となり、ALT の優れた授業実践等を共有できるようなシステムを作り、生徒が主体となって発信力を高めていけるような授業改善を推進していく。

【目標及び数値指標】

「ALT とコミュニケーションを図ろうとする生徒の意欲が高まったと思う」と答えた学校の割合 (%)

年度	2018	2019	2020	2021	2022
高等学校	100	100	100	100	100

(5) 小学校と連携している中学校の割合

本県では、これまで小学校での英語教科化に向けて、2018 年度に一部の市町村で先行実施、2019 年度に全県で先行実施を行ってきた。また、小学校英語教育支援事業において、全中学校の教員が域内の小学校授業参観や、小学校教員との研究協議などを通して相互理解を深める機会を作ってきた。

しかしながら、小学校と連携している中学校の割合は、83.7% (全国平均 82.0%) にとどまっている。

そのため、県では、小中連携の重要性を再確認させるために、「小学校外国語教育スタートアップガイド Vol.3」を作成した。本ガイドは、小学校外国語教育の推進のための指導資料として、本県の課題である小中連携の在り方と学習到達目標の設定についてまとめたものである。

今後は、本ガイドを県内全ての小学校及び中学校に WEB 配信し、訪問指導や研修等で活用することで小中連携 100%を目指していく。

【目標及び数値指標】

英語教育に関する小中連携の実施状況の割合 (%)

		2018	2019	2020	2021	2022
中学校	目標値	85.0	90.0	95.0	100	100
	実績値	86.0	84.0			

(6) 小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合

2020 年度小学校における新規採用者に占める国が求める英語力 (CEFR B2 以上) を有する者の割合は 1.9%であった。そのため、本県の教員選考試験では一定の英語力を取得している受験者に対して加点をしており、一定の英語力を有する人材の確保に努めている。

また、教員を目指す高校生、大学生を対象とした説明会において、英語教員の魅力を伝えるとともに、在学中に英語外部試験の資格を取得するよう啓発している。

さらに、2019 年度実施の教員選考試験から、スペシャリスト (2年以上の ALT の経験を有するネイティブ英語力の高い日本人) を対象とした特別選考を実施し、義務教育課で 5 名を採用し、うち 4 名を小学校英語専科指導教員として配置した。2020 年度についても、義務教育課で 5 名のネイティブを採用し、3 名を小学校に配置したところである。

今後は、本県の教員採用試験制度について大学生に直接説明を行うなどして、加点制度についてより確実に周知するよう努めるとともに、小学校教員免許状取得を目指す学生に対して、英語の教員の魅力を伝えるなどして、英語の免許状を取得するよう働きかけていく。

加えて、他県の取組も参考にしながら、引き続き優秀な人材を確保できるよう、教員選考試験

(様式 1)

の実施方法等について検討していく。

【目標及び数値指標】

新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合・人数 (上段：%/下段：人)

年度		2020	2021	2022	2023	2024	2025
小学校	目標値	5	10	20	25	40	50
	実績値	1.9					
	目標値	20	40	81	101	162	202
	実績値	8					

※令和2年度採用予定数 404 人の 50% (202 人) を基に積算

2. 1の目標を達成するための取組 (施策の全体像と具体的な計画)

**令和3年度 茨城県の小・中・高を通じた外国語教育強化のイメージ**

**目指す児童生徒像** グローバル社会で活躍する「人財」育成 茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦 「新しい人財育成」へのチャレンジ

**目指す資質・能力** ○語学力・コミュニケーション能力 ○主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感  
○異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ (出典) 「グローバル人材育成推進会議中間まとめ」(2011.6 文部科学省)

CEFR	現状及び課題 令和元年度英語教育実施状況調査 (R1 12月1日基準)	今後の対応と方向性																		
B2 (英検準1級等)	<b>理論的思考力を伴った発信力</b>	<b>【重点】児童生徒の英語力向上、英語での発信力の強化、小・中・高の連携・接続</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>生徒の英語力 (目標レベル)</th> <th>2019 現状値</th> <th>2020 目標値</th> <th>2021 目標値</th> <th>2022 目標値</th> <th>2023 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高校生 CEFR B2</td> <td>44.6</td> <td>49.6</td> <td>54.4</td> <td>59.2</td> <td>64.0</td> </tr> <tr> <td>中学生 CEFR A1</td> <td>48.3</td> <td>57.2</td> <td>60.4</td> <td>63.6</td> <td>66.8</td> </tr> </tbody> </table>	生徒の英語力 (目標レベル)	2019 現状値	2020 目標値	2021 目標値	2022 目標値	2023 目標値	高校生 CEFR B2	44.6	49.6	54.4	59.2	64.0	中学生 CEFR A1	48.3	57.2	60.4	63.6	66.8
生徒の英語力 (目標レベル)	2019 現状値		2020 目標値	2021 目標値	2022 目標値	2023 目標値														
高校生 CEFR B2	44.6		49.6	54.4	59.2	64.0														
中学生 CEFR A1	48.3	57.2	60.4	63.6	66.8															
B1 (英検2級等)	<b>「トップを伸ばす事業の充実」</b>																			
A2 (英検準2級等)	<b>即興で伝え合う発信力 中高連携の強化</b>																			
A1 (英検3級等)	<b>英語使用の意欲の向上 小中接続の内容充実</b>	<b>児童生徒対象事業</b> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>高</th> <th>中</th> <th>小</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ディベート大会 国連「0-N」スピーチ</td> <td>英検IBA 【2技能】 (中1・中3)</td> <td>小学校英語トライアル (小6)</td> </tr> <tr> <td>英語プレゼンテーションフォーラム 中学生の部 高校生の部 (※R5小学生の部の検討)</td> <td>英語4技能アセスメントテスト (中2) 高岡高林英語弁論大会 (中1～3)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	高	中	小	ディベート大会 国連「0-N」スピーチ	英検IBA 【2技能】 (中1・中3)	小学校英語トライアル (小6)	英語プレゼンテーションフォーラム 中学生の部 高校生の部 (※R5小学生の部の検討)	英語4技能アセスメントテスト (中2) 高岡高林英語弁論大会 (中1～3)										
高	中	小																		
ディベート大会 国連「0-N」スピーチ	英検IBA 【2技能】 (中1・中3)	小学校英語トライアル (小6)																		
英語プレゼンテーションフォーラム 中学生の部 高校生の部 (※R5小学生の部の検討)	英語4技能アセスメントテスト (中2) 高岡高林英語弁論大会 (中1～3)																			
	<b>教員対象事業</b>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>高</th> <th>中</th> <th>小</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修 ・明日から使える！高等学校授業改善研修</td> <td>・英語4技能5領域研修 ・ALT指導力向上研修</td> <td>・スペシャル教員 (ネイティブ、高度な英語力をもつ日本人) の積極的な採用と質の高い授業の提供、域内研修講師として活用</td> </tr> <tr> <td>・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修</td> <td>・連携教育実証研究 ・オンライン指導力向上研修 ・県担当者の訪問指導</td> <td>・体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修</td> </tr> <tr> <td>・体談と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修</td> <td>・指導体制の充実 (専科、教科担任制) ・オンライン指導力向上研修</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	高	中	小	・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修 ・明日から使える！高等学校授業改善研修	・英語4技能5領域研修 ・ALT指導力向上研修	・スペシャル教員 (ネイティブ、高度な英語力をもつ日本人) の積極的な採用と質の高い授業の提供、域内研修講師として活用	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修	・連携教育実証研究 ・オンライン指導力向上研修 ・県担当者の訪問指導	・体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修	・体談と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修	・指導体制の充実 (専科、教科担任制) ・オンライン指導力向上研修							
高	中	小																		
・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修 ・明日から使える！高等学校授業改善研修	・英語4技能5領域研修 ・ALT指導力向上研修	・スペシャル教員 (ネイティブ、高度な英語力をもつ日本人) の積極的な採用と質の高い授業の提供、域内研修講師として活用																		
・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修	・連携教育実証研究 ・オンライン指導力向上研修 ・県担当者の訪問指導	・体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修																		
・体談と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修	・指導体制の充実 (専科、教科担任制) ・オンライン指導力向上研修																			
	<b>国の動向</b>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> <th>2024</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校学習指導要領 全面実施</td> <td>中学校学習指導要領 全面実施</td> <td>高等学校学習指導要領 学年進行</td> <td>&lt;予定&gt; 全国学力・学習状況調査 中3英語</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	2020	2021	2022	2023	2024	小学校学習指導要領 全面実施	中学校学習指導要領 全面実施	高等学校学習指導要領 学年進行	<予定> 全国学力・学習状況調査 中3英語									
2020	2021	2022	2023	2024																
小学校学習指導要領 全面実施	中学校学習指導要領 全面実施	高等学校学習指導要領 学年進行	<予定> 全国学力・学習状況調査 中3英語																	

【小学校】

1 児童対象事業

(1) 小学校英語トライアルの実施 (R1～)

[目的] 小学校卒業段階の児童の英語力の実態を客観的に把握し、それらの結果を踏まえ、各学校

における英語教育の指導改善に活かすとともに、目標の設定と英語力向上への意欲付けを

図る機会とする。

[対象] 公立小学校6年生の全児童 (約 24,000 人)

(様式 1)

- [内容] ・小学校英語トライアル（2技能版）の実施  
・アセスメントの結果を小中学校教員の接続ツールとして活用

## 2 教員対象事業

- (1) 体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修（R3～）

[目的] 小学校の外国語活動・外国語科に関して、体験活動と参画活動のある実践的な研修を行い、授業スキルを身に付けることで、授業力の向上を図る。

[対象] 小学校教員 90名

- [内容] ・文部科学省視学官からの講義等  
・ワークショップ型研修及び研究協議  
・小中連携を踏まえた実践発表

- (2) オンラインを活用した指導力向上研修（R2～）

※先導的なオンライン研修実証研究事業（国事業）に申請予定

[目的] 動画を視聴し指導力に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、授業を通して英語力と指導力の向上を図る。

[対象] 小学校専科指導教員等（スペシャル教員は除く）

- [内容] ・オンデマンド動画の視聴と授業実践を組み合わせた指導力向上レッスン  
・外国人講師とオンラインによるマンツーマンレッスン

- (3) 県作成指導資料の普及と活用

- ・小学校外国語スタートアップガイド vol.1～3
- ・学識経験者によるオンデマンド型研修動画

## 【中学校】

### 1 生徒対象事業

- (1) 中学生の英語発信力向上事業（R2～）\*別添概要図1

[目的] 中学生の英語発信力向上

[対象] 公立中学校及び義務教育学校等の2年生（約25,000人）

- [内容] ・英語4技能アセスメントテストの実施  
・授業改善重点地域への訪問指導（3回/年）

- (2) 英検 IBA の実施（R1～）

[目的] 中学校卒業段階の生徒の英語力の実態を客観的に把握し、それらの結果を踏まえ、各学校

における英語教育の指導改善に活かすとともに、目標の設定と英語力向上への意欲付けを

図る機会とする。

[対象] 公立中学校等の1年生及び3年生の全生徒（約24,000人）

- [内容] ・英検 IBA（2技能版）の実施  
・アセスメントの結果を踏まえた中学校の授業改善の推進

- (3) 高円宮杯全日本英語弁論大会茨城県大会の開催

[目的] 生徒の英語による発信力の向上を図る。

[対象] 県内の公私立中学校等 第1～第3学年の生徒（各校から1名）

[内容] 中学生による英語スピーチコンテスト（テーマ自由）

- (4) 小中学校における遠隔教育実証研究事業（R2～）\*別添概要図2

[目的] 質の高い教育を実現し、児童生徒の学力向上を図る

(様式 1)

[対象] 県内 5 つの教育事務所管内の小中学校等

[内容] ・少数指導と遠隔教育を併せた実証研究（配信校からの受信校への遠隔授業）  
・小学校英語専科指導教員（スペシャル教員）による中学 1 年生への指導（小中連携）

## 2 教員対象事業

(1) 知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修（R2～）

[目的] 中学校における授業改善に関する講義、演習・研究協議等の研修を通して未来を拓く児童

生徒に求められる「活用」する力について理解するとともに、指導力の向上を図る。

[対象] 中学校教員 47 名

[内容] ・文部科学省調査官からの講義  
・「活用する力を高めるための授業づくりと評価問題の作成」及び研究協議  
・小中連携を踏まえた実践発表

(2) 中学校英語教員の英語力向上サポート研修（R2～）

※先導的なオンライン研修実証研究事業（国事業）を活用予定

[目的] 動画を視聴し指導力に必要な英語を学びながら、実際に授業で活用することを通して、英語での指導力の向上を図る。

[対象] 中学校教員（CEFR B2 レベル（英検準 1 級程度）を取得していない者教員）

[内容] ・オンラインによる集合研修、チュートリアル、ウェビナー等の受講  
・希望者に英語学習支援ツールの提供  
・外部検定試験への積極的受験

(3) 国立教育政策研究所指定による中学校外国語科実践研究協力校

・水戸市立第一中学校

### 【中・高等学校生徒対象の事業】

(1) 英語プレゼンテーションフォーラムの開催（中・高）（R2～）\*別添概要図 3

[目的] グローバルな視野をもち、他者と協働しながら課題を解決し、自分の意見を英語で発信することができる人財の育成

[対象] 県内公私立中学生及び高校生

[内容] ・中学生の部：プレゼンテーションのあとに、生徒同士のインタラクション  
・高校生の部：プレゼンテーションのあとに、審査員からの質疑応答

(2) 次世代グローバルリーダー育成事業（H30～）\*別添概要図 4

[目的] 海外の人々とのコミュニケーションをとりながら課題を解決していくための思考力やリーダーシップ、実践力などを育成する

[対象] 県内在住の中学 2 年生～高校 1 年生

[内容] ・インターネットを活用したトップレベルの英会話学習、集合研修会、海外大学留学生との交流プログラム等を 2 年間提供  
・世界で活躍する人材との交流、WSCへの参加

### 【高等学校】

#### 1 生徒対象事業

(1) ローズ杯高校生英語ディベート大会（H23～）

[目的] 実践的な英語コミュニケーション能力を高め、「国際社会で活躍できる人財」の育成

[対象] 県内高校生

[内容] 1 チーム 4 人編成で実施する競技ディベート

(2) 国連グローバルセミナー（H25～）

[目的] 国際的な視野を広げ国際社会に貢献しようとする態度を育成するとともに、国際社会に向けた生徒の主体的な進路選択を支援

(様式 1)

[対象] 県立高校生 40 名

[内容] 国連大学（東京）において、国際問題に関する講義の受講やプレゼンテーションの実施

(3) 短期留学者に対する経費支援（H23～）

①学校に対する支援金の交付（国委託）

②個人に対する支援金の交付（県独自）

(4) 外国語指導助手招致事業（S55～）

[目的] ネイティブと実践的な会話ができる機会を追加し、英語で思考・議論できる「グローバル人財」を育成

[対象] 全県立高等学校等

[内容] ・ディベートを活用した授業

・マンツーマン、少人数での英会話レッスン

・専門性をもつ ALT による英語以外の教科・課題研究の授業

・クラスの副担任として学校行事等での交流等

## 2 教員対象事業

(1) 英語 4 技能 5 領域統合型の指導・評価実践研修（R1～R3）

[目的] 教員の 4 技能 5 領域を統合した授業づくりに向けた英語指導力の向上

[対象] 県立学校教員等

[内容] スピーキングを中心にした統合的な指導方法の講義及び授業実践の発表等

(2) ディベートジャッジ研修（H23～）

[目的] ディベート大会において公平な審査を行うために必要な知識とスキルを取得

[対象] 県内の各高等学校、中等教育学校で受講を希望する英語科教員及び外国語指導助手

[内容] ジャッジセミナー、試合解説等

(3) 思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修（R2～）

[目的] 新学習指導要領の実施を見据えた学習指導に関する実践発表、思考力・判断力・表現力を高めるための講義・演習・研究協議を通して、評価問題の作成をはじめとする思考力・

判断力・表現力を高め、指導力の向上を図る。

[対象] 高等学校教員 30 名

[内容] ・大学教授からの講義

・実践発表及び研究協議

(4) 明日から使える！ 高等学校授業改善〔基礎〕研修（R2～）

[目的] 新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につ

い  
ての基本的な考え方や具体的な方法等についての講義、実践発表、演習・研究協議を通

して学び、授業力の向上を図る。

[対象] 高等学校教員 20 名

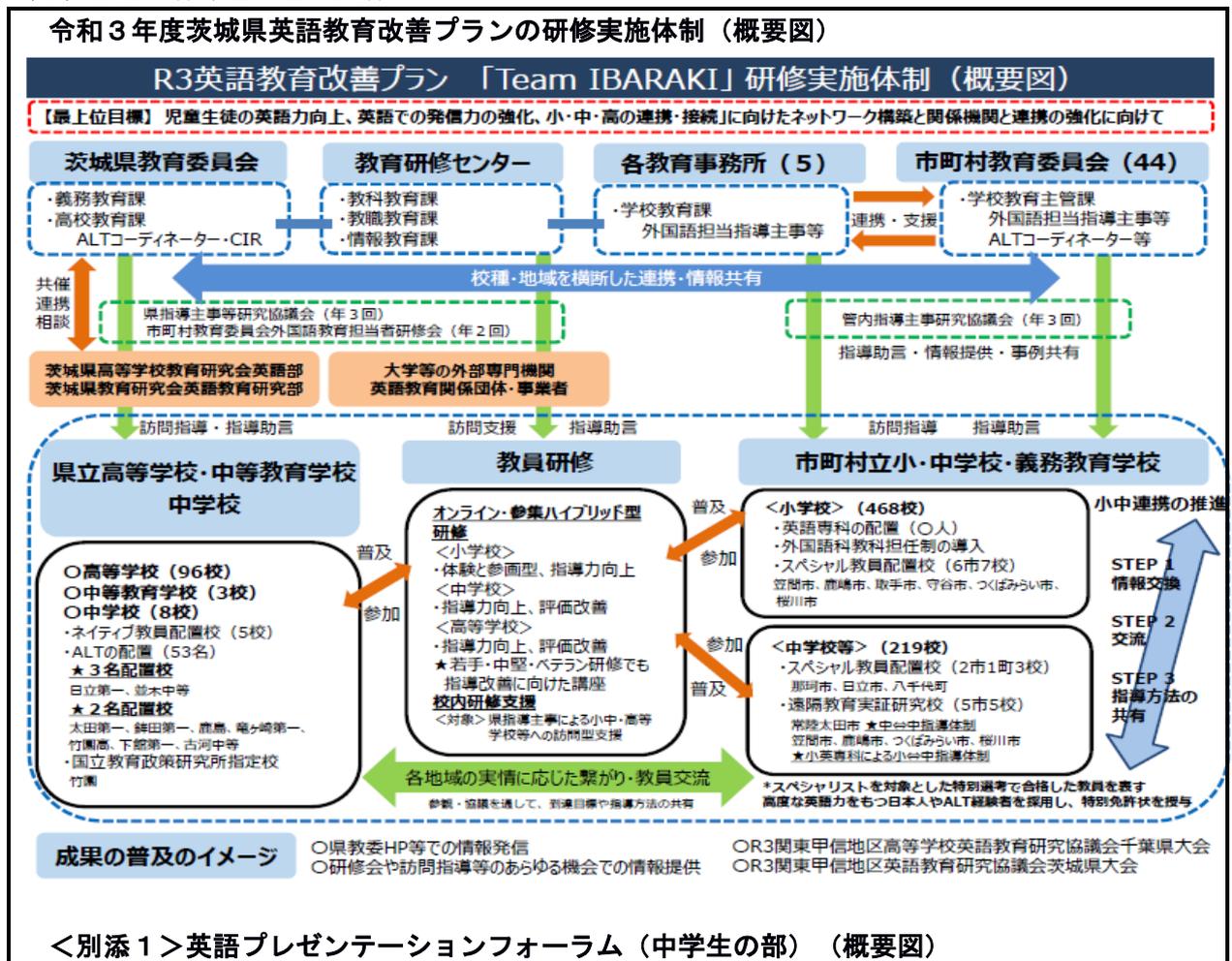
[内容] ・大学教授からの講義

・実践発表及び研究協議

(5) 国立教育政策研究所指定による高等学校外国語科実践研究協力校

・県立竹園高等学校

(3) 研修の体系と内容の具体



## 英語コミュニケーション能力育成事業 英語プレゼンテーションフォーラム（中学生の部）

グローバルな視野をもち、他者と協働しながら課題を解決し、自分の意見を英語で発信することができる人財の育成

**求める  
資質・能力**

語学力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、異文化理解・日本人のアイデンティティの形成、課題発見・解決能力、チームワーク等  
〈出典〉「グローバル人材育成推進会議審議まとめ」（2012年6月）

**Interaction（やり取り）**

言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を育成する授業

教師と生徒、生徒同士のインタラクション



Interactive Teacher Talk  
→ Small Talk

英語での豊富なインタラクション

技能統合型の言語活動の充実

複数単元を通した言語活動：プロジェクト型学習

**Production（発表）**

- まとまりのある内容を話す機会
- 聞いた、読んだことについて話す機会
- 自分の考えや気持ちを理由とともに伝える機会

審査員からのフィードバック

教科横断的な課題解決型テーマ  
-英語をツールとして自分の考えや気持ちを発信-

Presentation  
他のグループの生徒とのやり取り  
Sharing Time

**事業改善の背景**

アクティブリスナーの育成  
論理的・批判的思考の育成

授業改善に向けて

- Exposure & Experience
- ・生徒が英語に触れる機会
- ・生徒が英語を用いる経験
- 授業はコミュニケーションの実際の場面
- 思考力・判断力・表現力を育成する機会
- パフォーマンス評価の充実

**今後の方向性及びスケジュール（案）**

2021	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
構築・検討			周知					実施			2022年度に向けた検証	
市町村大会											2022年度に向けて	
地区大会									準備	地区大会		
県大会									事業再構築	要項		県大会
												検証・改善・周知

<別添2> 中学生の英語発信力向上事業（概要図）

## 中学生の英語発信力向上事業

学校教育部義務教育課

中学校の授業を改善し、生徒の英語4技能を総合的に育成することで、英語で発信する力を強化し、グローバル人財の育成を目指します。



**<Change> 対策**

- エビデンスを基にした授業改善
- 各事業の見直しと再構築

**<Chance> 計画**

生徒の英語力  
CEFR A1レベル相当（英検3級程度）  
48.3%（2019）  
⇒63.6%（2022）

**<Check> 検証**

- 4技能アセスメントテスト（中2）英検1BA（RLSW）
- 中1及び中3はRL版（2技能）、小6は英語トライアル（2技能版）
- データに基づく客観的な評価と検証

**<Challenge> 実行**

- AIツール（個別最適化学習）導入
- 習熟度別学習及び遠隔教育の推進
- スペシャル教員の活用
- 授業力アップサポート訪問  
\*英語専門指導主事のない3市町村程度

**第3期教育振興基本計画（2018～2022）  
EBPM【Evidence-based Policy Making】**

<茨城県> 英語教育改善プラン指標	2019 達成値	2022 目標値
求められる生徒の英語力 CEFR A1レベル（英検3級）	48.3%	63.6%
生徒の英語を用いた言語活動の割合	83.2%	100%
パフォーマンステスト（スピーキング・ライティングテスト）の実施状況	93.7%	100%
CAN-DOリスト形式の学習到達目標の設定状況	95.9%	100%
英語担当教員の授業における英語使用状況	87.0%	100%
求められる教員の英語力 CEFR B2レベル（英検準1級）	28.8%	60%
英語教育に関する小中連携の実施状況	83.7%	100%

令和元年度「英語教育実施状況調査」（全国7位）

<別添3> 小中学校における遠隔教育実証研究事業（概要図）

茨城県教育委員会

## ◎ 小中学校における遠隔教育実証研究事業【継続】

**高度な専門性や優れた指導力をもつ人材を活用した遠隔授業を実施することで、質の高い教育を実現し、児童生徒の学力向上を図る。**

優れた指導力をもつ教員による遠隔授業	高度な専門性をもつ人材による遠隔授業
<p>ハブとなる1つの配信校からエリア内の複数の学校へ配信 同時配信や受信校同士をつなぐ遠隔合同授業も可</p> <p style="text-align: right;">エリア型</p>	<p>1つの配信校・施設から1つの学校へ配信 習熟度別の少人数指導を実施(中学校)</p> <p style="text-align: right;">ヒポボイ型</p>
<p>各教科 <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">優れた指導力をもつ教員</span> 1人1台端末の活用</p> <div style="text-align: center;"> <p>エリア(市町村)</p> <p>配信校と受信校のユニットをつくり、ユニットごとに順次実施</p> </div>	<p>英語科 <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">ネイティブスピーカー等</span> AIツールの活用</p> <div style="text-align: center;"> <p>同時双方向</p> </div>
<p>プログラミング <span style="border: 1px solid red; padding: 2px;">外部人材(企業、大学等)</span></p> <div style="text-align: center;"> <p>同時双方向</p> </div>	<p>小中学校等：小学校、中学校、義務教育学校</p>

■ **授業公開(10~12月)** 推進イメージの構築

- ・市町村教育委員会の担当者、参観を希望する県内の教員
- ・各会場30人程度

■ **プロジェクト会議(5, 8, 1月)**

- ・遠隔システムの構築、授業づくり、検証等
- ・プロジェクトチーム(助言者、実証研究校、市町村、県)

4~8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人材の確保・任用	遠隔授業(対面含む)の実施						分析・検証
遠隔システムの構築	授業公開						Web公開

<別添4>次世代グローバルリーダー育成事業(概要図)

## ◎ 次世代グローバルリーダー育成事業

<p><b>&lt;目的&gt;</b> 海外の人々とコミュニケーションをとりながら、課題を解決していくための思考力やリーダーシップ、実践力などを育成する。</p>	<p><b>&lt;事業概要&gt;</b> 英語の学習意欲・能力の高い中高生を対象に、インターネットを活用したトップレベルの英会話学習、集合研修会、海外大学留学生との交流プログラム等を2年間提供していく。</p>
--	---

**グローバル社会で活躍できる人財へ**

英語の学習意欲・能力の高い中高生

**価値の創出**

- ・世界で活躍する人材との交流
- ・WSCへの参加
- ・企業等と共同による企画提案

**異文化理解**

- ・集合研修会
- ・大学等の専門家による研修等
- ・イングリッシュキャンプ
- ・海外大学留学生との交流等

**高い英語力**

- ・オンライン英会話(個人、グループ)
- ・プレゼン構想カトレーニング

※WSC...ワールドスカラズカップ

急速なグローバル化の進展により、国際社会で活躍できる人材の育成が求められている。

**1. これまでの成果**

- ・ワールドスカラズカップ決勝大会にて、ゴールドメダル等を複数獲得
- ・国際学生会議(模擬G20)にて、グローバルリーダーアワード受賞
- ・日本の魅力を世界に発信する会社を起業

**2. 課題**

- ・グループレッスンにより思考力やコミュニケーション力等が高められたが、相手に伝えるためのプレゼンの構想力に課題がある。
- ・WSCのテーマの専門性を高めるために、科学や歴史、文学、音楽や美術などのより専門的な知識が必要である。

**3. 令和3年度からの主な変更点** ○...改善 ◇...新規

	令和2年度まで	令和3年度から
対象	中学1年生~高校2年生	○中学2年生~高校1年生
英語力	個 4技能の習得(週5)	○4技能の習得またはディベート形式(週2)
	グ 事前課題+ディスカッション	◇プレゼン構想カトレーニング(月2)
集合研修	WSCへの参加	・事前課題+ディスカッション(週1)
	思考力やリーダーシップ育成	・WSCへの参加
補助	プレゼン発表会	・思考力やリーダーシップ育成
	海外大会(@5万×12人)	○WSCのテーマの専門性を高める研修(オーストラリアの大学・大使館等)
		○企業等と共同による企画提案
		○WSC世界大会(@10万×21人)
		○WSC決勝大会(@20万×12人)

<別添5>外国語指導助手招致事業(概要図)



## 事業名 外国語指導助手招致事業（拡充）



教育庁学校教育部高校教育課指導G

英語で思考したり議論したりする資質・能力を高めるため、外国語指導助手（ALT）を40人から53人に増員し、ネイティブと実践的な会話ができる機会を増やすことで、グローバル人材の育成を図ります。

- 1 ALT重点校（配置人数）：ALTを集中的に配置し、ALTの新たな活用方法と効果を実証  
日立一（3人）、並木中等（3人）、太田一（2人）、銚田一（2人）、鹿島（2人）、竜ヶ崎一（2人）、竹園（2人）、下館一（2人）、古河中等（2人）
- 2 活用場面例：ALTが主体となって生徒と実際のコミュニケーションを図る場面
  - (1) トップ育成のためのディベート指導
  - (2) 英語以外の授業、学校行事等への参加
  - (3) 異なる国のALTの多様な視点による授業
  - (4) マンツーマン、少人数での英会話レッスン
  - (5) 課題研究の方法を英語で伝授
  - (6) 副担任として生徒個々と交流



【ALTによる理科の授業】



【ALTとのディスカッション】

### (4) 年間事業計画

月	本県等の取組	対象者	外部専門機関等
4月	・県指導主事等研究協議会（第1回）	指導主事	
	・各市町村教育委員会外国語教育担当者研修会（第1回）	指導主事	
	・次世代グローバルリーダー育成事業（～3月中旬）	生徒（中高生）	委託事業者
5月	・英語コミュニケーション能力育成事業説明会（オンライン）	教員（中）、指導主事	
	・遠隔教育プロジェクト会議	指導主事、教員	大学教授
6月	・中学生の英語発信力向上事業説明会	指導主事	委託事業者
	・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修（第1回）	教員（高）	大学教授
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座（第1回）	教員（中）	文部科学省調査官
7月	・中学校英語授業改善オンラインセミナー	教員（中）	文部科学省調査官
	・英語プレゼンテーションフォーラム地区大会（5会場）	中学生	
	・教育課程連絡協議会（小・中学校外国語科）	教員（小中）	
8月	・体験と参画を通して小学校外国語の授業スキルを身に付ける研修（第1～2回）	教員（小）	文部科学省視学官
	・英語プレゼンテーションフォーラム県大会	中高生	有識者、民間機関
	・明日から使える！ 高等学校授業改善〔基礎〕研修	教員（高校）	大学教授

(様式 1)

	・思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修（第2回）	教員（高校）	
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座（第2回）	教員（小中）	文部科学省調査官
	遠隔教育プロジェクト会議（第2回）	指導主事、教員	大学教授
9月	・児童生徒の英語力向上事業（英検 IBA）（～12月）	児童（小6） 生徒（中1～3）	日本英語検定協会
	・中学生の英語発信力向上事業（～11月）	生徒（中2）	
	・ALT 連絡協議会	ALT	
10月	・高円宮杯第73回全日本中学校英語弁論大会茨城県大会	中学生	
	・県指導主事等研究協議会（第2回）	指導主事	
	・授業改善訪問指導（～12月）	教員（中）	
	・ディベートジャッジ研修	ALT、教員（高校）	
	・国連グローバルセミナー（～2月）	生徒（高校）	
	・英語4技能5領域の指導・評価実践研修（第1回）	教員（高校）	大学教授
11月	・ALT 指導力等向上事業研修	ALT、 教員（小中高）	大学教授
	・知識や技能を「活用」する力を高める指導力向上研修講座（第3回）	教員（小中）	文部科学省調査官
	・ローズ杯高校生英語ディベート大会	生徒（高校）	
	<県教育研究会主催> ・関東甲信地区英語教育研究協議会茨城大会	教員（小中）	文部科学省調査官
1月	・市町村教育委員会外国語教育担当者研修会（第2回）	指導主事	大学教授
	・遠隔教育プロジェクト会議（第3回）	指導主事、教員	大学教授
	・英語4技能5領域の指導・評価実践研修（第2回）	教員（高校）	大学教授
2月	・県指導主事等研究協議会（第3回）	指導主事	
3月	・事業成果報告書 WEB 配信	指導主事、教員	
<b>【その他の取組】</b> ・<研修センター>英語教育推進リーダー等の積極的活用（研究協力者等） ・<各市町村教育委員会>スペシャル教員を活用した小中学校教員への域内での研修体制の構築			

茨城県教育委員会

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	93.4	95	76	100	100	100	100	100	100
		公表(%)	27.9	30	19	23.1	40	45	50	50	
		達成状況の把握(%)	40.2	45	35.5	38.8	50	50	50	50	
	②生徒の授業における英語による言語活	39.4	40	37.5	38.8	45	47.5	50			
	③パフォーマンステストの実施状況										
	現行課程	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	159	160	150	223	180	190		
			コミュニケーション英語Ⅱ	116	120	154	199	140	145	150	
			コミュニケーション英語Ⅲ	45	50	50	65	60	65	70	
			英語表現Ⅰ	86	90	46	119	90	95		
			英語表現Ⅱ	30	30	26	55	40	45	50	
		○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	55	60	132	139	70	75		
			コミュニケーション英語Ⅱ	69	70	107	119	80	85	90	
			コミュニケーション英語Ⅲ	15	20	71	109	30	35	40	
			英語表現Ⅰ	100	105	136	213	115	120		
			英語表現Ⅱ	88	90	129	210	100	105	110	
	新課程	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ							200	
			英語コミュニケーションⅡ								
			英語コミュニケーションⅢ								
			論理・表現Ⅰ							100	
			論理・表現Ⅱ								
○ライティングテスト(回)		英語コミュニケーションⅠ							80		
		英語コミュニケーションⅡ									
		英語コミュニケーションⅢ									
		論理・表現Ⅰ							125		
		論理・表現Ⅱ									
④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	42	41.7	44	37	46	48	50				
⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	30	30	30	30	30	30	30				
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	530	530	530	530	530	530	530				

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	97	100	96	100	100	100	100	
		公表(%)	60	18	70	15.8	80	90	100		
		達成状況の把握(%)	60	55	70	46.6	80	90	100		
	②生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	90	78	95	83.2	100	100	100			
	③パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	6	5	6	6	6	6	6		
		ライティングテスト(回)	5	4	5	4	5	5	5		
	④英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	90	95	87	98	99	100			
	⑤求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	28.8	57	28.8	60	60	60			
⑥求められる英語力を有する生徒の割合(%)	48.6	41.5	54	48.3	57.2	60.4	63.6				

校種	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	学習到達目標の整備状況	設定(%)				30	50	80			
		公表(%)				20	30	40			
		達成状況の把握(%)				30	40	50			

独自No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
		目標値	達成値								
中学校	英語教育に関する小中連携の実施状況(%)	85	86	90	84	95	97	100			